

第1章 阪神・淡路大震災での緊急輸送、代替輸送の概況把握

1. 物流関係施設の被害状況

平成7年1月17日早朝に発生した阪神・淡路大震災は、神戸を中心とした阪神および淡路地区において、経済活動を支える物流施設—道路、鉄道、港湾等—に大きな被害を与えた。兵庫県災害対策特別委員会が取りまとめた資料（平成7年4月26日付）によれば、平成7年4月5日現在で、高速道路の被害が5,500億円、橋梁や一般国道等の公共土木施設は2,961億円、鉄道（JR、私鉄）の被害が3,439億円、港湾が1兆円に上る。（表1-1、図1-1参照）

表1-1 物流施設の被害額（平成7年4月5日現在）

物流施設	推計額
1 高速道路	約 5,500億円
2 公共土木施設（高速道路を除く）	約 2,961億円
3 鉄道	約 3,439億円
4 港湾	約 1兆円
合計	約 2兆1,900億円

（出所）「阪神・淡路大震災による被害及び応急・復旧対策について」
兵庫県災害対策特別委員会 平成7年4月26日付

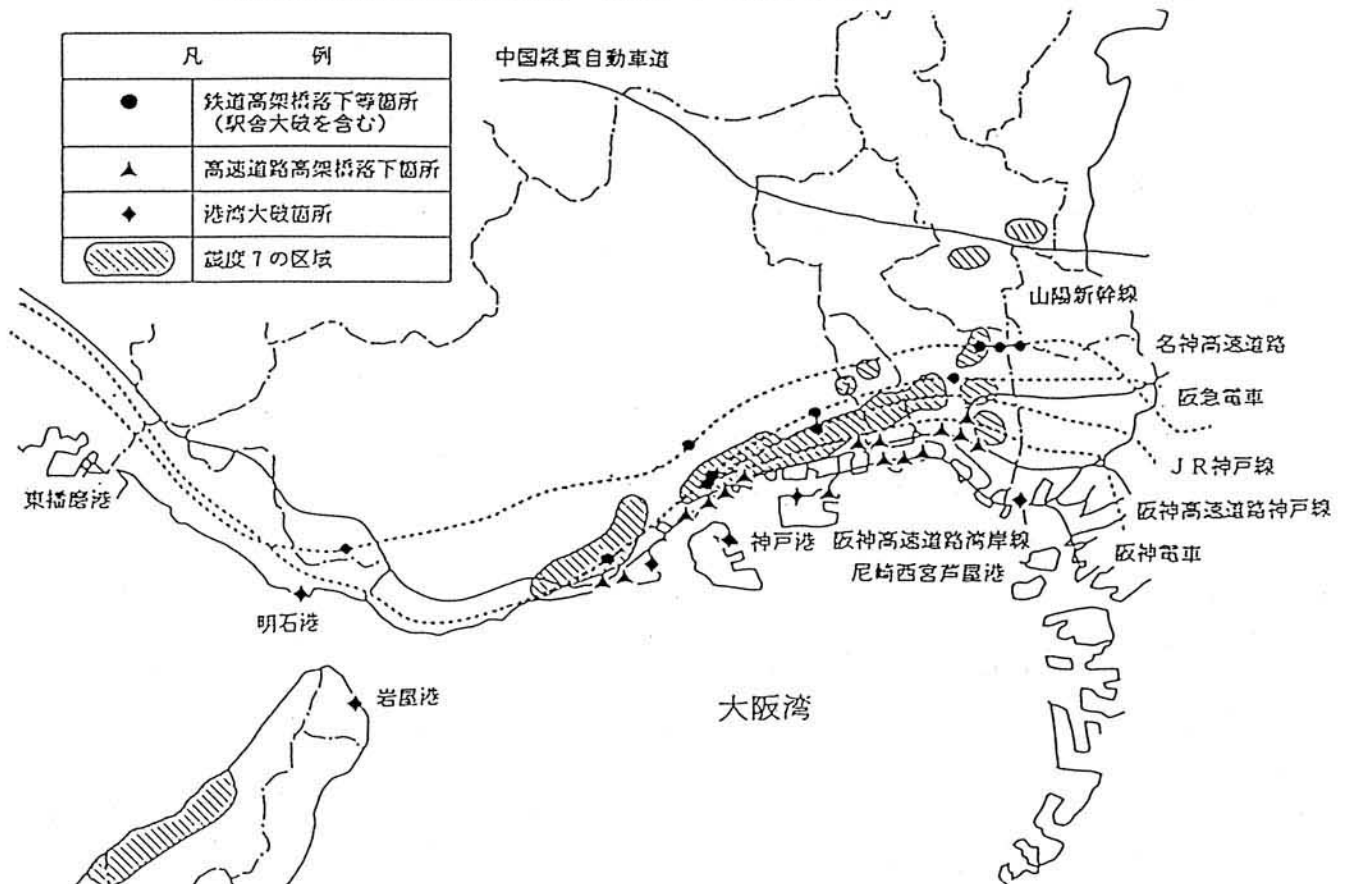


図1-1 交通インフラの大破箇所

（出所）「阪神・淡路震災復興戦略ビジョン」 都市再生戦略策定懇話会 平成7年3月